

平成22年度 大津市立皇子山中学校 学校評価書

- 皇子山中学校学校教育目標
- ・たくましく生きる生徒<確かな学力・体力の充実した生徒>
 - ・情操豊かな生徒<心豊かで、思いやりのある生徒>
 - ・社会性のある生徒<みんなに信頼される生徒>

- 教育推進の基本
- ・確かな学力と規律ある集団づくり
 - ・当たり前のことが当たり前のできる学校
 - ・ビギン オン チャイム(チャイムと同時に授業開始)

NO1

大項目	中項目	小項目	自己評価		学校関係者評価		今後の学校改善に向けて	
			小項目評価	中項目評価	中項目評価	意見、提言等		
(1)	基礎基本の徹底と個性を伸ばす創意ある教育の推進	1 確かな学力	1 わかる授業の構築と生徒の特性を伸ばす指導の工夫(授業研究・授業公開・授業参観)	B	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・授業参観では、生徒の様子も落ち着いており学級の雰囲気も大変良かった。また、授業にも積極的に参加している姿も見られた。 ・家庭での学習習慣があまりついていないように感じる。 ・少人数の授業は、生徒にとって大変意味あるものである。今後も継続していけるようお願いしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ビギンオンチャイム・朝学習の取り組みを継続し、毎時間の授業を大切にしていける。 ・教科書などの持ち帰りを含め、家庭における学習課題を示すとともに、家庭と連携を図りながら予習・復習などに取り組めるようにしていく必要がある。 ・少人数指導の指導の改善・工夫を図っていく必要がある。
			2 基礎基本の確実な定着のための反復学習や朝学習の推進	A				
			3 予習復習及び家庭学習の課題の提示と事後点検・指導による学習習慣の形成	B				
			4 少人数指導等の継続と工夫、学年教職員の協力による指導の推進	B				
		2 道徳教育	5 規範意識や礼儀など正しい道徳的判断力や心豊かな生徒を育成するための道徳の時間の充実	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・平成21年22年と文部科学省「道徳実践研究事業」の指定を受け、道徳の授業研究を継続し授業力の向上に努めた。 ・参観日や学校公開日等において、積極的な授業公開に取り組むことができた。 ・授業時数の確保と計画的な道徳授業の推進を図り教材研究や資料の整備に努めた。 ・道徳の時間を要として、各教科、総合的な学習及び特別活動との関連を図りながら、計画的、発展的な指導を図り、今後さらに道徳の実践力を高めていく必要がある。 ・今後も道徳教育の研修や公開授業を継続していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省の指定を受けたこともあり、「道徳ライブin皇子山」などの企画も組まれ充実した内容であった。 ・授業内容も工夫されており、各先生方の授業も素晴らしい。 ・授業参観(道徳の公開授業)において、保護者の参加が少なかった。保護者の方に来校いただくための方法を検討することも大切である。 ・道徳教育に力を入れて取り組んできたことがよくわかる。今後も、道徳の授業を大切にしていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳の授業が充実したものになるよう今後も継続して取り組んでいく必要がある。 ・道徳の公開授業を実施するにあたり、多くの保護者に参観していただけるような取り組みを検討する必要がある。 ・道徳教育の取り組みをこれからも地域に発信していくよう取り組んでいく必要がある。
			6 生命等を尊重する心や公共心、公德心などの道徳的実践力を育てる活動の実施	A				
			7 道徳の授業研究や資料の整備・交流	A				
			8 保護者への道徳の授業公開	A				
		3 体験活動	9 各種体験活動の積極的な実施	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・各種体験活動(校外学習、修学旅行、葛川自然教室、福祉体験、キャリア教育など)を通し自ら学び自ら考え主体的に判断し、行動できる生徒の育成に努めた。 ・事後学習では、新聞、レポート等にまとめ教室や廊下に掲示し学習の成果を発表した。 ・学習発表会や保護者の参加については、工夫改善に努めて行く必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各種体験活動に子ども達は、喜んで参加しており、満足感のある内容であった。 ・キャリア体験を参観したが、生徒たちが積極的に参加している姿がみられた。生徒にとって、大変良い体験が出来たのではないかと、活動の発表については、ホームページや通信等を活用して保護者に知らせることも出来るのではないかと、体験活動における発表会等への保護者の参加については、なかなか難しいと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教室掲示を工夫し懇談会の時期には学習のまとめを見ることが出来るよう取り組んでいく必要がある。 ・ホームページや通信の活用方法を検討していく必要がある。
			10 活動後の発表会等学習のまとめ	B				
			11 発表会等への保護者等の参加	C				
		4 人権教育	12 人権意識や思いやりの心の育成といじめ問題への対応	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・3年間を見通した計画的な人権教育の推進と継続的な取り組みを実施することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ問題に対して、今後も積極的に取り組んでいきたい。 ・携帯電話の普及により、サイトへの書き込みなどいじめ問題も難しくなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員自らがより豊かな人権感覚を養い、高い人権意識を培うために教職員研修の充実を図る。 ・学校教育全体を通して、人権教育を高める指導に努め、3年間を見通した計画的な人権教育の推進に努めていく。
		5 特別支援教育	13 個別指導計画の作成	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・定例の特別支援教育部会を開催し、情報交換や個別の指導計画を作成するとともに組織的、計画的な支援体制の充実に向けた取り組みに努めた。 ・ケース会議や職員研修を実施し、職員の指導力向上に努めた。 ・特別支援学級とのかかわりを大切にしながら、特別支援教育が職員全体のものになるよう取り組んでいく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内においては、特別支援教育が整備され、その取り組みをしていることが理解できる。ただ、保護者にとって特別支援教育そのものが理解できていないのではないかと、特別支援を要する生徒に対して、特別支援教育支援員が1名しか配置されていないので十分に支援するには厳しいのではないかと、 	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育について、保護者にも周知してもらうための工夫が必要である。 ・特別支援を要する生徒に対して、個別の支援を行うには支援員の増員が必要である。 ・一人ひとりの教育的ニーズに応じた個別指導計画を作成し指導方法を工夫する必要がある。
			14 組織的・計画的な特別支援教育体制の確立	B				
			15 巡回訪問等を活用した校内研修	B				
		6 生徒指導	16 校内の生徒指導、教育相談体制の確立と組織的な推進	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・定例の生徒指導部会・教育相談部会の充実を図り、校内の生徒指導体制の整備に努め問題の早期発見・解決に努めた。 ・生徒指導主事のリーダーシップのもとに生徒指導に取り組んでいる。今後、さらに各学年の生徒指導が主体的に取り組めるよう検討していく必要がある。 ・常に危機意識を持ち、足で稼ぐ生徒指導を推進していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業参観での学校の様子を見ていると大変落ち着いている。 ・生徒数が800名を越しているにもかかわらず、きめ細かな生徒指導が出来ている。 ・家庭の問題もあるとは思いますが、朝、遅刻する生徒がいるのが気になる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒は、落ち着いて学校生活を送っているが、学校として常に危機意識を持って生徒指導に取り組んでいくことがこれからも大切である。 ・皇子山中学校は家庭訪問を大切にしながら、これからも足で稼ぐ生徒指導を継続していく必要がある。 ・問題の早期発見・早期対応に努めていく必要がある。
			17 家庭、学校における基本的な生活習慣の構築(早寝・早起き・朝ごはんと遅刻ゼロ)	B				
			18 皇中環境宣言や服装規定の継続的な見直しと主体的・自立的な生徒会活動の充実	B				
		7 読書活動	19 週1回以上の全校読書活動	A	C	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週金曜日に朝の読書の時間を設定し、読書活動の充実に向けた取り組みに努めた。 ・NHK大津放送局のアナウンサーを講師に招き、『読み聞かせ・朗読編』の研修会を行い教師の指導力向上を図った。 ・国語科を中心に読書感想文の応募などにも積極的に参加した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼い頃より家庭での読み聞かせができていない。学校だけでなく家庭で読書をする習慣づくりが必要である。 ・『図書便り』を発行することで、もっとアピールしていくことが必要でないか。 ・国語科や写真集などで活字離れが進んでいるのが現実である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書室の本の紹介や利用の仕方などアピールする必要がある。 ・本に対する興味付けをどのようにしていくのか。図書室の活用方法を考えていく必要がある。
			20 読書環境の整備や地域人材等の活用	C				
			21 音読、群読、暗唱等発表の場の設定	C				

大項目	中項目	小項目	自己評価		学校関係者評価		今後の学校改善に向けて		
			小項目評価	中項目評価	中項目評価	意見、提言等			
(2)	地域に開かれた特色ある学校づくりの推進	8 安全安心な学校	22 学校公開・ホームページ・学校通信による情報提供	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者として子どもを安心して学校に送り出すことが出来ている。 ・本年度は、メール配信システムによるメール発信がなかった。特に緊急を要する事業がなかったと理解している。 ・各学年の廊下やトイレ等もよく整備(清掃)されている。 ・学校のホームページもしっかり更新されている。 ・学校通信によって、学校の様子もよくわかる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の様子について、学校通信、学校ホームページ等での情報の発信に努めていく。 ・日々の生活全般を通し、教職員の危機管理意識の高揚を図っていく。 ・『報告・連絡・相談』体制の徹底と課題に対して迅速・的確に誠意を持って対応していく。 ・保護者対応については、電話だけで済ますのではなく、直接保護者と出会う場を多く持つよう努めていく。 	
			23 危機管理マニュアル・個人情報取扱い規則の周知徹底とメール配信システム等の充実	A					
			24 学校・保護者・地域関係者によるあいさつ運動や安全パトロールの実施	A					
			25 落ち着きのある学習環境の構築と施設・設備の充実、安全点検の実施	A					
		9 学校協力者会議	26 情報提供と授業参観の実施	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に学校協力者会議を開催し、授業参観や情報交換を行い学校教育への参画と理解を得るよう努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な学校協力者会議の開催に努めていく。 ・学校情報を発信し、学校教育への参画と理解を得るよう努めていく。 	
			27 学校運営支援・安全緊急対策等協力体制の充実	A					
		10 学校評価	28 自己評価結果の公表	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に校内評価委員会、学校関係者評価を開催し学校評価の実施に努めた。 ・学校評価を実施し、結果の公表に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価についてよく取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内評価委員会および学校関係者評価委員会を開催し、学校評価の実施に努め、次年度の学校運営にいかしていく。 ・学校生活に関わる生徒、保護者アンケートを継続し、その結果をもとに改善を図っていく。
			29 学校関係者評価の実施	A					
			30 学校関係者評価結果の公表	A					
		11 小中連携活動	31 子どもの校種間交流や教員の出前授業	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会を中心に新入生入学説明会を実施し交流を深めた。 ・校区内において出前授業を実施した。本年度は、新たな取り組みとして藤尾小と比叡平小の児童を本校に招いて、中学校で授業体験を実施した。 ・保幼小中連携事業として、NHK大津放送局のアナウンサーを講師に招き『読み聞かせ・朗読編』の合同研修会を実施した。 ・外国語活動、小中合同協議会を開催し、小学校の授業研究と情報交換をおこなった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・11年間を見通した保幼小中連携を推進していくためには、生徒・教師・保護者・地域の交流も大切である。 ・保幼小中としての情報を共有化することも大切である。 ・縦だけのつながりだけでなく、横のつながりも大切である(4小学校同士・4幼稚園同士など) 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導協同推進を核とした皇子山中学校区の組織を確立し、事業の推進を図る。 ・保幼小中連携事業の推進を図るため、校種間の交流(生徒、教職員)の充実を図るよう努めていく。 ・校種間の授業交流、公開を図っていく。 ・生徒会を中心に交流を図っていく。
			32 校種間合同研修会	B					
			33 校種間の授業公開	B					
		12 子育て支援	34 保護者の子育てに対する積極的な支援	C	C	C	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の相談活動においては、スクールカウンセラーと連携し相談活動に取り組むことができた。 ・学級懇談会のあり方について、これからも検討していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回の授業参観を実施するなど親が子どもの様子を見られる機会を設けてはどうか。 ・3歳までの教育、小学校3年までの教育が大切である。中学校は、学習を中心に支援をしていくことが大切である。 ・学校がすべきことが多すぎる。現状の教員数では無理があるのではないか。今の中学校の現状を考えると十分に考えていると考える。 ・子育て支援に関する情報は十分発信している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も、スクールカウンセラーとの相談など子育て支援に関する情報の発信を行っていく。 ・地域懇談会の開催し、情報交換を行う中で子育て支援を実施していく必要がある。 ・保護者同士が交流を図れる場の提供を図っていく。(不登校の親の会などは現在行っている)
			35 保護者の悩みを聞く個別相談の実施	B					
			36 保護者同士の交流や学習の場を意図した参観、懇談会の実施	C					
(3)	教職員の意識改革と専門性の発揮	13 研修	37 研修テーマに基づく校内研究体制の確立と授業実践に基づく指導力の向上	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学期に1回の公開授業を実施し、指導力の向上を図ることができた。 ・道徳の授業を研究の柱とし、週時程の中に道徳部会を位置づけるとともに月1回の道徳研究推進委員会を設定し研修の深まりを図った。 ・夏季研修(教育相談・性教育・特別支援教育)で講師を招聘し資質向上を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修の充実に向け今後も継続して取り組んでほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTの活用を図るための研修に取り組む必要がある。 ・定期的な授業研究や公開授業の実施に努めていく。 ・教職員一人ひとりの力量を高めていくために積極的に教育センター等での研修に参加する必要がある。
			38 確かな力量、総合的な人間力向上のための積極的な研修への参加	A					
		14 新しい人事評価	39 目標マネジメントによる自己目標の設定と評価の実施	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・目標によるマネジメントによる自己目標の設定と目標達成への取り組み、自己評価に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育方針、教育推進の基本を明確に提示し、それらに基づく自己目標を設定し、資質、能力、組織力の向上に努めていく。 	
(4)	県共通	15 学校満足度	40 生徒の学校満足度	B	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒・保護者のアンケートの結果、90%を超える生徒、保護者とも「学校生活は楽しい」と回答している。今後、さらに満足できる学校づくりに努めて行く。 ・生徒一人ひとりの進路保障や学習環境づくりに取り組むことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒・保護者のアンケートの結果や授業参観・来校時の生徒の様子より満足しているといえる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒、保護者が安全安心して生活できる学校づくりを目指し、生徒一人ひとりの進路保障や学校環境整備に努めていく。 ・基礎基本の定着を図るため、朝学習の工夫や放課後の補充学習の充実にも努めていく。

評定(達成度)の目安

達成度	指 標
A	満足できる
B	どちらかという満足できる
C	どちらかといえば課題がある
D	課題がある